



実用新案登録願

1,500円

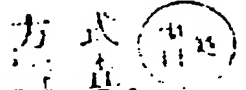
昭和47年4月7日

特許庁長官 井 土 武 久 殿

1. 考案の名称 アンゼン
安全ベルト
2. 考案者 オオサカシヒガシタヨコヅリ
大阪府大阪市東区横堀4丁目15番地
アシモリコウゴロウ
芦森工業株式会社内
ヤマダヒロカズ
山田 裕 一 外1名
3. 実用新案登録出願人
オオサカシヒガシタヨコヅリ
大阪府大阪市東区横堀4丁目15番地
アシモリコウゴロウ
芦森工業株式会社
キダケイキチ
取締役社長 木田 経吉
4. 代理人弁理士 東京都千代田区三番町9番1号
麹町三番町マンション216号室
(6813) 伊 藤 和 三 郎
5. 添附書類の目録
 - (1) 明 細 書 1通
 - (2) 図 面 1通
 - (3) 委 任 状 1通
 - (4) 出願審査請求書 1通

47 040968

49-2027-01



明 細 書

1. 考案の名称 安全ベルト

1. 実用新案登録請求の範囲

ベルト体 / の所望個所にベルト体 / をたるませて一定荷重に達した際に結接糸が破断するか或いは接着剤が剥離して伸長する結接材 2 で結接した余裕巾 3 を形成してなる安全ベルト。

1. 考案の詳細な説明

本考案は自動車その他の交通機関の座席に装備される安全ベルトの改良に関する。

従来の新種ベルトは引張り荷重を加えても伸度はあまり増大せず荷重を取り除くと伸長した分が急に収縮するのである。従つて衝突時とか急停止したとき着用者はベルトによつて強く身体を締めつけられるばかりでなく、停止した後にも身体が前記ベルトによつて後方に引き戻されることになり甚々危険である。

本考案はこのような従来の欠点に鑑み之れを改善すべく工夫したものであつて、之れが為図に示

すようにベルト体１の所望個所にベルト体１をたるませて一定荷重に達した際に結接糸が破断するか或いは接着剤が剝離して伸長する結接材２で結接した余裕巾３を形成したものである。

尚、前記余裕巾３は第１図に示すようにベルト体１をたるませてこの部分を直接結接材２により縫着するか接着して結接するか或いは第２図に示すようにベルト体１の表面に端部４、４をそれぞれ固定すると共にその相接する接続端５、５を相互に結接材２で結接した結接片６、６を介して形成しても任意とする。

而して本案は上記した構成であるから、着用中引張り荷重がかかった時、その荷重が小さい間は余裕巾３を形成したベルト体１は伸びないが、ある一定の荷重に達すると余裕巾３の結接材２たる結接糸が破断するか或いは接着剤が徐々に剝離するからベルト体１は余裕巾３の分だけ繰り出されて伸長し身体に加わる衝撃エネルギーを吸収する。そして余裕巾３がすべて延ばされると全荷重はベルト体１にかかるのであるが前記繰り出された余

裕巾 3 によつてベルト体 1 の伸度は余り増大せず従つて荷重が除かれた後も弾性回復は伴なわないのである。

従つて本案によれば衝突又は急減速をした当初においては身体が強く締めつけられるようなことがなく一定の荷重に達するとベルト体は余裕巾だけ自動的に伸長して身体に加わる衝撃を確実に吸収出来ると共に又荷重が除かれた後もベルト体の弾性回復は殆んどないので停止時に身体を無理に引き戻すことがないという利点があり、又余裕巾の長さや結接材の強弱を調節することによつてベルト体の伸度を自在に調節することが出来るから交通機関の座席に着座する着用者に適合した安全なベルトを容易に設計し得るという効果がある。

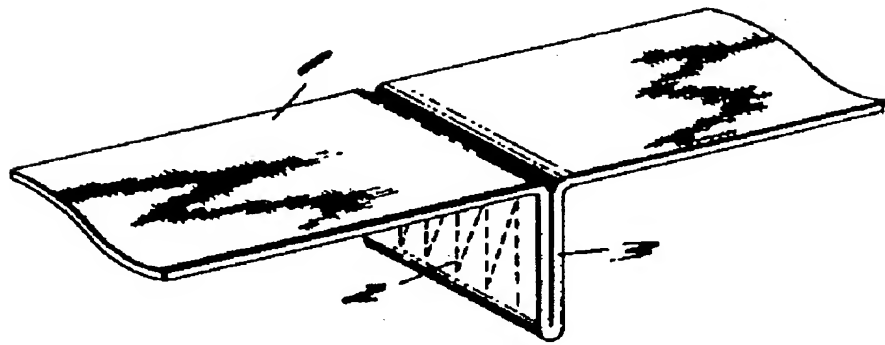
1. 図面の簡単な説明

第 1 図、第 2 図は本案の要部を示す斜視図である。

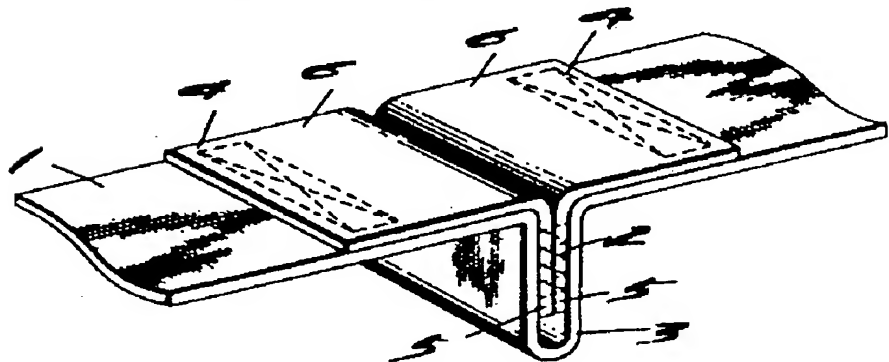
主要符号 1 … ベルト体、2 … 結接材、3 … 余裕巾。

BEST AVAILABLE COPY

第 1 図



第 2 図



実用新案登録出願人
芦森工業株式会社
代理人 伊藤 和二郎

2027

49-2027-05

6. 上記以外の考案者

オオサカシヒガシタロコダリ
大阪府大阪市東区横堀4丁目15番地
アシモリコウギョウ ナイ
芦森工業株式会社内
サ トウ アサ ヒロ
佐 藤 彰 宏

BEST AVAILABLE COPY

49-2027-06